



「中学生だったら、定期テストが300点台で、400点を目標そうという子が一番合っていますね。実際にそういう子が成績を確実にアップさせています。かといって、決してトップ校を目指す塾ではないのです。二番手あたりの、いわゆる地域の人気校ですね。公立も私立もそのあたりを目指す層がメインターゲットです」

「塾関係のつながりで紹介されたオーナーですが、ある大手塾の教室長だった方です。そこから独立という流れですね。塾業界に限った話ではないですが、昨今、人手不足で給料は上がらないのに仕事の量は増えるという悩みは多いと思います。FCオーナーになるかと思っても、大手の看板を借りる条件は簡単ではありません。うちがFC展開を検討しているタイミングで、そういったご紹介とご相談をいただ

きました。そのオーナーは大手の教室長のときには味わえなかった結果を出しているとのことですので、嬉しいですね」

直営では、コロナ禍の2020年にみのり台教室を開校し、齋藤代表の実兄、齋藤一磨氏が教室長を務めている。

「大切にしているのは再現性。どこでも誰でも同じ結果を出せることが大切です。業界未経験である兄がRadar Chartシステムで教室運営ができるかどうか実証してみました」と語る齋藤代表。その結果「生徒数も実績も順調に右肩上がりになっている」とのこと。

さらに、来年2月には「東松戸」に直営教室の新規開校が決まっている。「FCにしてもシステムパートナーズにしても、大きく勝てるようなビジネスモデルではありませんが、負けないシステムであることは間違いありません。電気代の高騰や人材不足などの要因で業界全体が苦しい中、私たちはそれらに十分堪えて生きのびていくことができます。この負けないシステムに共感していただける方々と一緒に、ぜひとも未来の塾づくりをしていきたいと切に願っています」

直営 みのり台教室



2013年に設立されたRadar Chartは、小3から中学生、高校生を対象とした自立型個別指導の地域密着塾。ウイングネットの中学生向け教科書準拠の教材で生徒が自走できるコンテンツ「ベーシックウイング+mode」をフル活用して、着実に成績を上げ、志望校へ合格させている。

取材に訪れるたびに、ウイングネットの活用方法はもろろんのこと、塾運営そのものを進化させて続けているRadar Chart。齋藤龍史代表にRadar Chartの現状と今後の塾づくりについて話を伺った。

中学生は5教科受講で2万6500円という定額制なので、生徒や保護者にとってそれ以上は払わなくて済むという安心感がある。

「地域の人気高校に合格するには、入試から逆算していつ何をどのように学習すればいいかがおおよそ決まっていますので、その内容を学習させるだけなんです。ですから、中3から入ったら、部活を引退する夏以降は勉強量を増やして、入試に間に合うようにスケジュールを組んでいます」と齋藤代表は語る。

Radar Chartの、自立学習を促す学習システムに合っているのは、すでにある程度の学力があり、さらに成績をアップさせたいという意欲を持っている子どもたちだ。

「中学生だったら、定期テストが300点台で、400点を目標そうという子が一番合っていますね。実際にそういう子が成績を確実にアップさせています。かといって、決してトップ校を目指す塾ではないのです。二番手あたりの、いわゆる地域の人気校ですね。公立も私立もそのあたりを目指す層がメインターゲットです」

## 大きく勝てないけれども、大手にも負けない塾づくり

齋藤代表は塾向けのコンサルティンク業も始めている。

「カリキュラムなどは全部うちのものを提供しますが、看板は好きな看板でやってください、というシステムパートナーズで京都の宇治の塾が導入しています。高校入試はかなり地域によって違います。千葉県は学校の定期テストの問題と入試問題のギャップが大きくて、学校のテストで400点取れても、本番の入試では300点くらいしか取れません。それくらい難しいのです。ところが京都府は、学校のテストと入試の難易度があまり変わりません。通知表も千葉はあまり重視しませんが、京都は結構重視します。ですからその入試に合わせた指導ができるようにアドバイスを行っています」

2年前には、指導システムのFC化を検討していると述べていた齋藤代表だが、千葉県船橋市に三咲駅前教室がすでに誕生している。



みのり台教室 教室長 齋藤一磨氏

Rader Chart 代表 齋藤龍史氏

千葉県松戸市

# リーダーチャート Radar Chart

ベーシックウイング+mode

齋藤 龍史 代表

# ベーシックウイング+modeで1対30の自立型個別指導を教室長1人で50人を指導

学習塾ではなく、自分の頭で考え抜く「勉強ジム」

学習塾ではなく「勉強ジム」と名乗っているところがRadar Chartの大きな特色。塾と勉強ジムとの違いは、他人の頭で考えるか、自分の頭で考え抜くかの違いだと齋藤代表は述べる。

中学生コースの場合、「受験や試験に向けて5教科で成績を上げたい」「授業料があまりにも高すぎる！」「通っている(いた)塾で思うように成績が上がらない」「プロ講師による質の高い授業を受けたい」という生徒と保護者の悩みに特化して生まれたのが「勉強ジム」だ。ウイングネットを導入したときから活用している「ベーシックSSC」は、64種類の教科書準拠ワーク&映像授業があり、学校の授業の完全理解に役立つ。通常期は「導入授業」で学校の予習ができ、定期テスト前には、「演習授業」で得点力をアップすることができる。

また、自立学習を促す+modeは、生徒にとっては先生の指示を待たなくても、生徒自らが授業を進めることができ、先生にとつては指示出しを簡略化できるので、1つの教室で複数の学年や教科を同時に指導することが可能になるといえるものだ。

多くの業界で人手不足に陥っている昨今、講師、しかも有能な講師はさらに採用しにくい状況下、「教室長1人で運営できる」塾としてもRadar Chartは話題だ。

生徒は教室に入ると、その日学習する範囲を確認してログインし、映像授業で学習を進め、演習も行う。+modeには問題を解く時間も搭載されているため、学習時間の管理も行ってくれる。授業後には生徒が自己評価を記録するので、復習する際には優先順位が示される。宿題も示されるため、先生の指示を待たずに学習を進めることができる。

## ウイングネットを徹底的に研究して独自にカスタマイズ

ウイングネットのICT教材を徹底的に研究し、生徒が通う学校のテストや入試に合わせる



取材に伺った六実・六高台教室



せて、ウイングネットのコンテンツを独自にカスタマイズして生徒に提供しているのも、Radar Chartの特徴の一つだ。入試までの時間を有効に使うため、入試や学校のテストで不要な内容はあえて学習せずに飛ばしてしまうこともあるという。

また、塾に来る回数などにかかわらず、